

令和5年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会

うきは幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の保育理念に基づいて、「目指す子どもの姿」「保育方針」を掲げ、年間目標、指導計画を作成している。「養護と教育の一体性」を重要視し、一人ひとりの子どもの発達を踏まえたうえで、年間計画、月間計画、週案を立て、生活の連続性や乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるよう、また保育内容がより充実するよう努めている。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	子ども主体の保育を重視し、それぞれの年齢に応じて子ども自身の力が十分発揮されるよう、また発達に合わせた遊びが展開できるよう、取り組んだ。新型コロナウイルスが5類に変更された後は、行事の在り方や異年齢の関わりを増やし、徐々にコロナ禍以前の取り組みが、できるようにした。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	年齢層や保育経験も様々な保育士がチームとして保育に取り組んでいる。それぞれの専門的知識や技能、発案等うまくかみ合わせながら日々の保育の充実を図るよう努力している。 また、自分の保育を振り返る機会を持ち、且つチームとして定期的にケース会議を実施しながら、より保育の質の向上を図るよう努めた。
IV 保護者への対応・支援	職員全員が守秘義務を遵守し、保護者の立場を尊重している。 家庭と対等な関係を築いて互いに協力しあいながら子どもの育ちを支え、成長や喜びを共有していきたいという考えのもと、保護者支援に力を入れている。日々の保育の様子は連絡帳アプリを通して豊富な情報発信を行い、家庭と園が子どもの育ちを共有できるように努めている。 保護者の子育て中の不安や悩みには個人面談等を通して耳を傾け、保護者に寄り添う姿勢を大事にしている。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	幼老連携の取り組みとして、4月から週2回15分程度、同敷地内の高齢者施設への訪問、交流を再開している。園児や施設利用者の方も大変楽しみにしており、引き続き継続していきたいと考えている。 昨年同様、地域との関りとしての近隣のデイサービスや老人ホームへの慰問は、休止しているが、うきは駅での列車見送りやうきは市の社会福祉法人協議会の取り組みにも参加し、地域とのつながりを持っている。
6 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	法人全体の若手研修を含め、市内のグループ研修、園外の on-line 型研修などに積極的に参加し、職員が主体的に学び合う姿勢と環境作りに努めている。また、新たに入職した職員を対象として保育方針説明会を行い、保育に対する考えの共有を図っている。 職員全体では、市内の姉妹園と合同で小グループでの研修会を行い、個々の保育に関する課題を見出し、チームとしての情報共有や保育の質の向上につなげた。また園長、主任が職員との面談を行い、個々の保育に対する悩みや戸惑いを軽減し、安心して保育ができるような体制をとっている。